

3級 【パターン】傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃>

- ・課題のシルエットは、ストレートより少々ウエストシェイプしたものであるが、前身頃はダーツを袖ぐりや衿ぐりに分散して展開した結果、袖ぐりや衿ぐりが大きすぎ、浮きすぎとして減点された物や、分散や展開しないためにダーツが大きくなりすぎているものもあった。
- ・後ろ身頃は衿に隠れて肩回りが見えないが分散後、肩ダーツをとるべきである。ウエストダーツに展開したものがあつたが、ダーツ止まりが遠いため肩甲骨の下でふくらみが出来てしまいシルエットが崩れてしまっていた。
- ・前後身頃のダーツを展開した後、袖ぐり線を原型よりもゆるいカーブ線で引き直した場合、胸幅が広くなる傾向がある。また、後ろ袖ぐりは原型と同じ幅、あるいは削り加減で引き直す傾向があるため、胸幅に比べて背幅が狭くなっているものが見られた。袖ぐり線の修正がうまくできないため、肩線前後のつながりが角になり、袖のシルエットを崩してしまったものもあった。

<衿>

- ・今回の衿は少し衿腰の高いセーラーカラーである。一般的には前後の肩線を重ねて作図をするが、出来上がりに似合った重なり（衿のねかし）にする必要がある。囲みで作図した中には、フレアーカラーに近いものも見受けられた。
- ・衿まわりの形状も後ろ身頃へのかぶり分、前身頃側の広さやカーブ形状がデザインにそぐわないものも多くあり、減点された。

<袖>

- ・袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山寸法を定寸（既習の寸法）で製図しており、今回の出題ブラウスの袖山の高さより高いものもあった。さらに、袖山のいせ分量が多すぎたり寸法が不足していたり、袖山の形状が不自然だったり、適切ないせ分量・袖形状で描けていないものが目立った。また、後ろに振れているものもあった。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは、基本的なパターンにおいては、必要な記号などを記入することで確実に点数をとれるようになったと思われる。しかし、今回のようなセーラーカラーやフラットカラーなどの衿腰の低い衿にも返り線は存在するので記入されていないパターンも見られ、減点されている。

- ・ ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状が適切であることが求められる。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。
- ・ ファーストパターンを作成する際には、脇線、肩線などを突き合せた状態で袖ぐり線、衿ぐり線、裾線その他の線のつながりを確認し、修正して完成させることが必要である。
- ・ 課題に設定された着丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタン・ステッチなどが記入されていること。最後に衿、ポケットなど、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパターンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。
- ・ 最後に、ファーストパターンは作図パターンを別紙に、別々にトレースして、名称、記号、合い印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。